

院長のコラムが掲載されました

医療の窓

MEDICAL-COLUMN

⑤ 駒木 智さん

「自身はともかく、小さなお子様や高齢のご両親が重篤な病気になる時、名医に診てもらいたいと思ったことはありませんか？ 僕は名医への道をなから捨てている小児科医ですが、こういう希望は分かります。

ただ医師の仕事である病気の診断や治療、予防は基本的に病気のマニュアル（ガイドライン）があり、その通りにやっている医師がほとんど。重篤な病気でも「この患者にしか治せない」なんてことは、ほぼありません。逆にどんな患者さんにとっても名医になるという医師は、存在しないことになりました。

でも大丈夫です。普通の医師や新人研修医が名医になることが、確かにあるのです。それは患者と医師の人間関係がとも良いものになっている時。私のような凡医でも名医になれます。

具体的方法を教えます。自身やご家族が病気になる時、まず病気の事を本やインターネットで必死に勉強してみてください。そして診察の時が重要です。学んだことを全部忘れるくらい、リラックスして臨んでください。勉強しすぎて疲れ果て「もういいや委ねよう。先生、お願いします」と。人事を尽くして天命を待つ、そんな心境です。天命は医師が決めるものではないのですが、任せられると医師は良い気分になるものです。良い気分は良い医療につながります。そんな単純な



「こまき・さとし郎 北海道小樽市出身。北海道大医学部卒、熊本大医学部大学院修了、医学博士。2008年、熊本市に駒木小児科クリニック開業。日本小児科学会専門医、県保険医協会理事。「医師と患者の診察室での演劇性」について関心を持つ。58歳。

名医の見つけ方

話が「と思われるかもしれないが、医師も人の子なので全部忘れるくらい、リラックスして臨んでください。勉強しすぎて疲れ果て「もういいや委ねよう。先生、お願いします」と。人事を尽くして天命を待つ、そんな心境です。天命は医師が決めるものではないのですが、任せられると医師は良い気分になるものです。良い気分は良い医療につながります。そんな単純な

「名医の見つけ方」は患者さんが「名患者になること」、結局は医者のご都合主義のよくな話になりましたが、よい医療はよい人間関係から生まれるのだと思います。

私たちが体や心の病気に向き合う医療従事者。健康や医療に関する身近な話題を、県内の医師らに月1回、語ってもらいます。

県内の医療関係者に月1回寄稿してもらう連載「医療の窓」では、読者からのご意見や感想を募集します。〒860-8506 熊本日新聞社文化生活部「医療の窓」係。ファクス096(361)3290、メールはkurashi@kumanichi.co.jp